

11/7 (木) 市民生活を守る

市役所で、矢板市管工事組合と「災害時等における水道施設の応急復旧に関する協定」を締結しました。この協定は、災害などで大規模な断水が発生した場合に、官民連携により水道施設の給水機能を迅速に回復させることを目的にしたものです。

市長は締結にあたり「水道は、命に関わる最も大切なライフラインの1つ。有事の際、水道の速やかな復旧のためにも、地域に精通している組合の方たちは、とても心強い存在」と話されました。

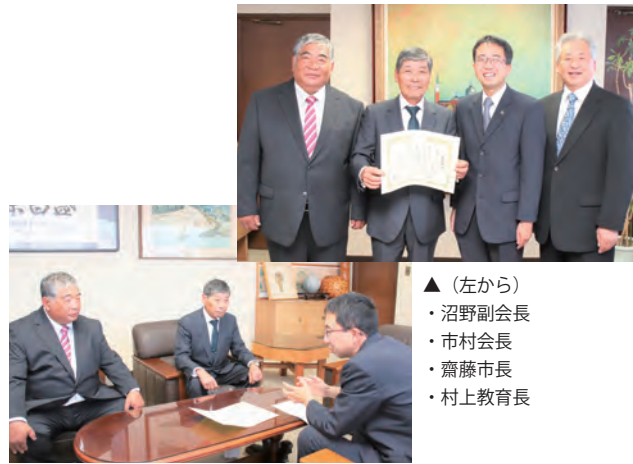


▲(左から)
・野川副組合長
・矢板組合長
・齋藤市長
・横塚副市長

11/15 (金) 地元で守り育てる

県青少年育成県民会議から、子ども育成憲章功労団体の表彰を受けた「乙畑ひまわりスクール実行委員会」の方が市長を表敬訪問しました。放課後の子どもたちの居場所づくりのほか、物づくりや昔遊びなどを通して地域の伝統行事の継承を行っていることが評価されました。

市村会長からは「放課後の見守りや体験活動を通して、子どもたちと地域の方たちが顔の見える関わりを持つことは、とても大切なことと考えている。今後も地域の協力を得て続けていきたい」と熱い思いを伝えていただきました。



▲(左から)
・沼野副会長
・市村会長
・齋藤市長
・村上教育長

11/17 (日) 地域の強いつながり

片岡公民館で、「第40回片岡地区コミュニティ文化祭」が開催されました。当日は、天気にも恵まれ、つきたて餅の模擬店などに多くの方が列を作るなど大変にぎわいました。また、芸能発表では、地区内小中学生による合唱が披露されるなど多くの方が会場に詰めかけました。

会長の江面さんは「地域の方たちが一堂に会するこのまつりは、地域間・世代間の交流の場でもある。地域コミュニティの強いつながりが、この盛り上がり表れている」と会場を見ながら目を細めて話してくれました。



11/28 (木) 私たちにできること

泉中学校で、福祉のこころ推進校に指定されている矢板高校と泉中学校が連携した「災害避難所スマイルセンター」の設営訓練が初めて行われ、生徒やシニアクラブの方など約150人が参加しました。この訓練では、学校で学んだことを災害避難所で活かせる内容にしようと、半年かけて生徒たちが準備を進めていたものです。

訓練に参加した生徒からは「実際に避難した時にも、自分たちが学んできたことを活かし、地域の方たちの役に立ちたい」との感想がありました。



▲ハンドマッサージを受けたシニアクラブの方は「笑顔でマッサージされると心まで温まる」と感想を話してくれました。
◀炊き出しには、矢板高校で収穫した新米コシヒカリが使われました。

きらめく冬の風物詩

11月29日(金)、矢板駅前のイルミネーション点灯式では、すみれ幼稚園児によるハンドベル演奏、やいた応援大使「Lovin&S」によるミニライブが催され多くの方でにぎわいました。矢板高・矢板中生徒が作成した天使の羽のイルミネーションなど、約30,000個のLEDライトが駅前広場を彩りました。

30日(土)には、片岡駅西口で点灯式が行われ、飾り付けられた約10,000個のLEDライトが駅西口全体を幻想的に包み込みました。訪れた方たちは、地域有志の方から振る舞われたけんちん汁やコーヒーで冷えた体を温めながら雰囲気を楽しんでいました。



12/1 (日) 櫂をつなぐために

塩谷地区の2市2町を9区間で駆け抜ける「塩谷地区駅伝競走大会」が行われ、本市から2チームが出場し、Aチーム4位、Bチーム6位と健闘しました。沿道に駆け付けた観衆から全ての選手たちに向けて送られる大きな声援が、力走する選手の背中を押していました。

第1区を任された兼子 咲楽さん・土屋 蝶羽さんは「チーム全体のリズムをつくるため、昨年よりも良いタイムで走ることができるようがんばりたい」と、スタート前に意気込みを語ってくれました。



●区間賞
第7区 大澤 瑠海
●表彰
5カ年出場 手塚 新輔

12/8 (日) 受け入れることの大切さ

片岡公民館で、「障がい者週間のつどい」が行われました。このつどいは、障害者週間にあわせ、障がい者への理解と意識啓発を目的に毎年開催されているものです。

「子どもも親も幸せになる発達に課題のある子の育て方」と題した講話では、知的障がいを伴う自閉症の息子さんを持つ立石 美津子さんが登壇し、「普通」へのこだわりから子育てに苦しんだ講師自身の経験を基に「障がいの有り無しではなく、子どもの特性を受け入れることが幸せな子育てへの第一歩」と話されました。



▲オープニングアトラクションとして、たかはら学園和太鼓クラブによる和太鼓演奏が披露されました。
◀自身の経験を基に「子どもも親も幸せになる発達障害の子の育て方」など関連著書を多数出版されています。

12/11 (水) 気を引き締めて年末を

犯罪が多くなる年末や火災発生が多い冬の季節を迎えたことから、市内一斉に「防火・防犯診断」が実施されました。これは、民家や施設に対し火の元確認や旋錠の徹底など、安心・安全なまちづくりのための意識啓発活動の一環として、矢板地区防犯協会を中心に市・矢板警察署・市消防団が合同で行っているものです。

市長・警察署長・消防団長は、矢板駅前駐輪場で自転車の旋錠状況の確認や施設利用者に声掛けを行うなど、防犯パトロールを行いました。



◀出発式では、鈴木矢板警察署長から「無施錠の住家での空き巣被害が増えている。警戒している姿を見せることで防犯への意識啓発につなげたい」との話がありました。